

mmc ニュース

MEIDAI MASS-COMMUNICATION CLUB

発行 明治大学マスコミクラブ
 〒101-8301
 東京都千代田区神田駿河台1-1
 明治大学広報部内 MMC事務局
 電話 03-3296-4082
 FAX 03-3296-4087
 発行人 木村 武
 編集人 中谷 範行



21世紀の メディア変革のはじまり — MMC の充実を!!

MMC 会長 木村 武 (64年・法卒)

従来は、大手企業によるM&Aやグループ化の波に直面している……。

二〇〇五年のANAログテレビからデジタルテレビへの全面変換を前に、ライブドアによるニッポン放送株の買占め、さらにソフトバンク陣営の参戦は、インターネット企業の既存メディアに対する挑戦と同時に、40年以上続いた5大ネットワーク変革の始まりか?とビックリしている中、NHKの不祥事に対する受信料金不払いが70万世帯に広がるなど、テレビを巡る動きは慌しさを強めている。もしNHKが民営化されると、民放は基盤を揺るがしかねない。しかし戦後60年の民主主義確立に果たしたメディアの役割は何ものにも変えがたい。インターネットが情報の便利屋からマスメディアに融合したとしても、言論・報道の自由と強い倫理性は不可欠であり、営業利益より優先されなければ国民の支持を失うことになる。



二〇〇一年のANAログテレビからデジタルテレビへの全面変換を前に、ライブドアによるニッポン放送株の買占め、さらにソフトバンク陣営の参戦は、インターネット企業の既存メディアに対する挑戦と同時に、40年以上続いた5大ネットワーク変革の始まりか?とビックリしている中、NHKの不祥事に対する受信料金不払いが70万世帯に広がるなど、テレビを巡る動きは慌しさを強めている。もしNHKが民営化されると、民放は基盤を揺るがしかねない。しかし戦後60年の民主主義確立に果たしたメディアの役割は何ものにも変えがたい。インターネットが情報の便利屋からマスメディアに融合したとしても、言論・報道の自由と強い倫理性は不可欠であり、営業利益より優先されなければ国民の支持を失うことになる。

二〇〇五年総会 木村武氏を新会長に選任 新理事長は斎藤柳光氏

二〇〇五年MMC明治大学マスコミクラブ総会及び新年懇親会が1月26日、東京・神田駿河台の母校リパティタワー23階「紫紺」で開かれた。70人のクラブメンバー参加のもと、役員改選を行い、会長に木村武副会長の昇格、斎藤柳光理事の理事長就任を満場一致で承認、留任の澤田慎介幹事長も加えた新三役体制となった。そして、河合公八郎前会



総会・新年懇親会より

MMCセミナー開催決定! 牛尾 奈緒美 氏

(明治大学情報コミュニケーション学部助教授・就職委員)

■日時: 2005年5月27日(金) 18:30~20:30
 ●受付: 18:30~ ●セミナー/懇親会: 18:45~
 ■場所: 駿河台・明治大学「学生会館8階会議室」
 ■セミナー費: 3,000円(懇親会費含む)
 <テーマ予定>
 ●情報コミュニケーション学部の現状とマスコミ志望学生の動向
 ●マスコミ及び経営者・管理職の新常識「ジェンダーマネジメント」とは



牛尾さんは元フジテレビのキャスターというマスコミ出身者。明治大学が次代の要請でスタートさせた情報コミュニケーション学部で、マスコミ志望学生の支持を最も集めている。

そんな新学部の現状とMMC予備軍の現役学生の動向、そして専門研究のジェンダーマネジメントなど、じっくりうかがう。

《プロフィール》

慶應義塾大学文学部仏文科卒業後、83年フジテレビ入社。「FNNスピーク」「FNNモーニングコール」などのニュース番組のキャスターやワイドショー番組等のメイン司会を務める。

退社後、慶應義塾大学大学院経営管理研究科修士課程に進学、MBA取得後、同大学院博士課程へて、98年、明治大学専任講師に。短期大学、経営学部にて教鞭をとり、04年より現職。

専門は人的資源管理、経営管理論、並びに「ジェンター・マネジメント」(企業経営における人事問題をジェンターの視点から分析)。

《著書》

- ◆『ジェンター・マネジメント』(共著/東洋経済新報社)
- ◆『大学生の就職と採用』(共著/中央経済社)等。

* 出欠のご連絡は、ニュースに同封の出欠用紙と返信用封筒をご利用の上、5月10日迄にご投函ください。

みんなで運営するMMC

MMC理事長 齋藤 柳光 (67年・文卒)



の対応が焦眉の急となっており、

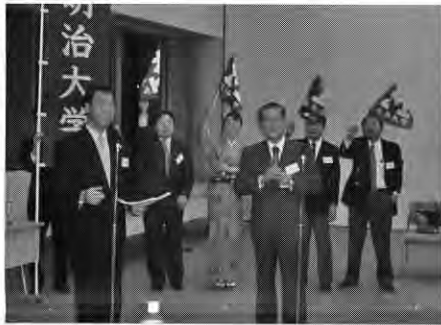
つぎましては二〇〇五年は、一つ一つの課題に取り組んで、MMCをより有為で実体的な組織として確立していきたいと考えております。

以下、年間の活動スケジュール(別表)をまずは充実したかたちで運営する態勢を整えたいと思っております。そのために、役員会及び新年総会で「1役員1行事イベント責任担当制」の実施を確認いたしました。

これについてはすでにEメールによる【MMC事務局からのお知らせ】でも説明させていただきましたが、全役員が何らかの行事やイベントの推進・運営を「一つだけ」責任をもって遂行していただくというものです。

「忙しさ」を克服しながらもなんとか愛する母校のためにOB組織活動を展開していこうという難易度の高いMMCの活動を維持、活性化するために考えたものです。

忘年会より... 箱根駅伝出場の明大競走部・松本様 部長と司会の松永二三男理事



睡ならびに会員相互の交流・協力を図るとともに明治大学の発展に寄与することを目的とする」とあります。

しかしながら、現実には会員相互の交流・協力については、ややもすれば置き去りにされ、会全体としての活動に個を捨てて参加する傾向が強かったように思います。

そこで、「会員のメリット創出」という明確な方針も打ち出し、メンバー相互がもっともっと情報交換しながら協力し合っていくことにいたします。Eメールによる



わかれはあくまでボランティア集団です。それだけにMMCの活性も衰退も、自らの責任の中にあります。会頼みでも人頼みでもない、この手で躍動し築き上げていく明治大学マスコミクラブにしましょう。

是非ともお力添え願います。

2005年 MMC 活動スケジュール

* () 内は担当役員

- 【1月】 ●26日：総会・新年懇親会
- 【3月】 ●25日：観桜ゴルフコンペ(楡・阿部(剛))
- 【4月】 ●中旬：MMCニュース第11号発行(中谷・三役)
- 【5月】 ●27日(金)：MMCセミナー①「牛尾奈緒美情報コミュニケーション学部助教授」(三役)
- 【6月】 ●MMCセミナー②(目賀田・鎌倉・香川)
- 【7月】 ●上旬：MMC就職セミナー「全体」(内田・阿部(剛)・須藤)
●中旬：MMC就職セミナー「アナウンサー」(小沼・松永)
●下旬：サマービアパーティ(山川・茂木・石垣・黒田・小林・岩崎)
- 【8月】 ●下旬：富士登山(木村)
- 【9月】 ●中旬：MMCニュース第12号発行(中谷・服部・古満)
●下旬：MMCセミナー③(宮本・中野・吉田・阿部(江))
- 【10月】 ●中旬：MMC就職セミナー「放送」(本村・倉林)
●下旬：MMC就職セミナー「広告」(和田・西村)
- 【11月】 ●上旬：秋のゴルフコンペ(猪野・鎌倉)
●上旬：MMC就職セミナー「出版」(田中)
●中旬：MMC就職セミナー「新聞」(大串・門田・黒木)
●下旬：MMC就職セミナー「プロダクション」(中根・大林)
- 【12月】 ●上旬：忘年会(山川・茂木・石垣・黒田・小林・岩崎)
- 【1月】 ●下旬：新年総会：駒形・馬淵・武内・波多野
- 【時期未定】 ●新規プロジェクト(千田・山田・関根・惣部・平石・八木)

《総合担当役員》

- 〈懇親会〉 柳沢・正盛
- 〈MMC就職セミナー〉 内田・阿部(剛)
- 〈アウトドアイベント〉 楡
- 〈MMCニュース〉 大高

MMC 明治大学マスコミクラブ 役員

Table listing MMC members and officers, including names, roles (e.g., 会長, 副会長, 顧問), and graduation years.

MMC 2004年会計報告 (2004年1月1日~12月31日)

Financial report table showing income (収入の部) and expenses (支出の部) for 2004, with a total balance of 187,310 yen.

MMC 2005年 活動方針

- 従来の活動の継続：新年総会、サマー懇親会、忘年会、ゴルフ(春・秋)、就職セミナー
●MMCセミナーの活性化
●富士登山の復活
●若手・中堅が参加したくなるイベントの開催
●会員ののためのメリットの創出

活動方針推進策

「A」 「1役員1行事イベント 責任担当制」導入
「B」 若手主導のイベントの開催
「C」 Eメールリストの活用
「D」 ネットワーク制・各社世襲制の推進
「E」 部門別・世代別イベント
「F」 情報コミュニケーション
「G」 会員名簿改訂と財政健全化

就職は挑戦である

05年マスコミ就職概況(明治大学就職課より)

桜はまだない春光の3月26日、日本武道館から多くの卒業生が巣立った。彼らの全ての軌跡を追うことは紙面が許さないため、05年3月卒業生の主なマスコミ企業への入社予定者数をあげる。データ

「1」内
は3月23日現在の数字。「1」内は前年3月卒業生の数字。

朝日新聞社3「2」、毎日新聞社1「1」、読売新聞社2「0」、日本経済新聞社3「2」、集英社0「1」、NHK4「2」、日本テ

レビ1「1」、TBS1「0」、フジテレビ1「0」、テレビ朝日1「1」、電通3「0」、博報堂2「2」、東急エージェンシー2「1」、ホリプロ1「2」...

業界を問わず、近年の学生の傾向として「つまみ食い」各業界または企業の表面だけを舐めるが多く見受けられる。一を識りて二を知らない学生が如何に多い

とか。とはいえ、一を聞いて十を知る若者はまずいない。十を聞いて一を知るのが現実ならば、MMCセミナーの果たす役割は極めて大きい。明治大学就職課のモットー「就職は挑戦である」と合わせれば、今年度もMMCと就職課の協和を強く望みます。



「アナウンサーの方も大変かねー！」道端で出会ったおぼちゃんから言われた言葉。

ご存知の方もいるかもしれませんが、ローカル局はアナウンサーに入社してもしゃべりの仕事だけではありません！それは、想像以上。睡眠時間が1・2時間の時もあり日付が変わったころタクシーで帰って気付けば朝だったという人も珍しくありません。一に体力、二に根性!!、体がもう一



入社して1年... 悪戦苦闘の毎日です。

長崎文化放送(04年・文卒)

前田 真里

つ欲しいくらいです。

今は、情報番組のMCと天気予報、中継ディレクターを担当していますが、グルメレポートでカレーうどん3玉食べたり、フリークライミングに挑戦したり、100キロウォーキングを完歩したり...この1年だけでも様々なことがありました。今でも毎日が発見の嵐です。まだまだ仕事をうまくこなせていませんが、どこもローカル局は人数に余裕がないのでオールマイティーにこなせる力を求められているような気がします。

今、就職活動をされている方も精神的、体力的にも大変かもしれませんが、たくさん悩んで自分で考えたら必ずそれは次の自分へと繋がります。学生の皆さん、残りの学生生活、自分の時間を大切に頑張ってくださいね。皆さんの活躍を遠く長崎から応援しています!

がんばれ! マスコミ新人



私のホリプロへのファーストステップは、MMCのプロダクションセミナー終了後、壇上に駆け上りホリプロの先輩にお名刺を頂いたことから始まりました。

私のマスコミへの道はMMCが導いてくれたわけです。

そのMMCの会員になれ、多くの心強い先輩に恵まれた私は非常に幸せ者です。

持ち前のパワフルさで、若手・女性会員の先輩者となればと思っております。

今後とも宜しくお願い致します。

若手・女性メンバーの先導者に...

ホリプロ(05年・商卒)

林部 宏子



根本は人との繋がり

東京ニース通信社

(05年・政経卒)

荻井 翔

人間として、人との繋がりがコミュニケーションをより一層大事にすることが、さらなるステップアップになると確信します。宜しくお願い致します!



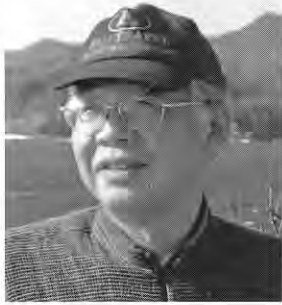
辛いけど、選んだ道

タイクス(05年・政経卒)

千早 康平

「制作部? ADになるの? ツライ仕事選んだね!」

就職先を話すと言われることだ。しかし、言われる度いつも決意する。たとえ辛かろうが、キツかろうが、寝れなろうが自分がやりたくて選んだ道、やるからには全力でやろうと。その先にMMCの諸先輩方のようなマスコミ人が待っている。明治出身のマスコミ人になるべく、全力で頑張っている。



約5万人が玉砕した島
二月と三月、北マリアナ諸島は北東からの貿易風が吹く。日本からおよそ二千五百キロの距離サイパン島はサンゴ礁の内側リーフでウィンドサーフィンに興ずる若者や観光客で賑わっている。ことは日本防衛の盾として米軍と戦い軍民あわせ約5万人が玉砕した島も戦後六十年目の節目を迎えていた。南北約20キロ、東西約10キロ、わずかな島、あちこちに、まだ旧日本軍の弾薬庫やキャタピラの吹き飛んだ戦車、高射砲、そして魚雷などが赤錆びたまま無残な姿を晒す。島の北端、アッピー岬は米軍に

会員寄稿

Liberty Tower & Hall

自由の塔、自由の殿堂

追いつめられた軍人や住民が200人以上はあろう断崖から「生きて虜囚の辱めを受けず」その決意から次々と岩に砕け散る波間に万歳を叫んで飛び込んだところ、「バンザイ・クリフ」である。

TV・新聞のメディアは六十年前の一九四五年三月十日払暁、サイパン島から発信した米軍のB29爆撃機が東京下町に襲来し、約二〇〇〇トの焼夷弾を雨、霰の如く落とし街は火の海と化し10万人もの命を奪った模様を一齐に伝えていた。私の思い。いま、それぞれ

TVで「私の昭和史」「人に歴史あり」「あ、戦友・わが軍歌」、ドキュメンタリー番組を中心に制作してきた。出身地は北海道、第二次世界大戦は小学生時代。幸いにも空襲や疎開、食糧難など悲惨な戦争体験をえずに済んだ。戦後、戦争体験をえずに済んだ。戦後、上京し朝鮮動乱のさ中、上野駅に降り立ち戦災の傷跡を残し復興に立ちあがる東京の姿をながめながら、明治大学に入学した。下宿は自炊の部屋借り、お茶の水駅前にあった食堂で国から配給された外食券を手に一杯の外米ご飯と味噌汁を啜りバラック校舎で講義をうけた。閑話休題

忘れ得ぬサイパン回顧

戦後六十年目の追憶

馬淵 豊 テレビ東京OB (56年・文卒)

友人の兄の足跡をたずねて

私は以前、友人から「オレの兄はサイパンで玉砕した。君も行って探してくれよ」といわれていた。では行くかということになって、今回のサイパン行きが実現したのだが、私にとっては歴史の回顧となる旅となった。

彼の兄は、六十四年前、たった一枚の赤紙召集令状で故郷から出征し、中国東北部(旧満州)東安省に旭川師団から関東軍に編入された。当時、関東軍はソ満国境で軍事演習を展開しロシアに不可侵の脅威を与えていた。日本は南太



バンザイクリフにたつ慰霊碑の1つ

平洋の戦況が配色濃くなった軍隊の応援に関東軍の兵力を南方の前

線に送り込んだ。彼の兄も釜山・横浜経由でサイパン島に転戦させられた。勝ち目のなくなつた日本軍はそれでも日本防衛最後の拠点にサイパンを死守しようとしていた。しかし、物量に物いわせた米軍の前には歯が立たず一九四四年七月十八日、大本営はサイパン守備隊の玉砕を認め発表し、時の東条英機内閣が退陣、終戦にむけて胎動を始めた。この戦いで「日本軍は、陸海約四万一千名、在留邦人一万名が戦没した」と記録され、彼の兄もその一人だった。私は彼の兄の玉砕場所を確かめるべく調査をつけ防衛庁などで配属部隊名を調べたが



遺族が卒塔婆を立て、島に今も残る日本軍の砲門

名前がどうしても分からず、マリアナ政府の取材許可をとりつけ現地に赴いた。政府係員の案内で縦長の島を北から南下し旧アスリート空港(現国際空港)の横道に入ったところに碑はあった。部隊名と六百十八名の名前が刻印されている。「独立歩兵第三百七十七大隊、藤田一郎」とある。やっと辿り着いた彼は冷たい石文に節縛立った手を差し伸べ「兄よ。辛かったろう！会いに来たよ。これで弟も着た甲斐が。母はいない。安らかに。享年二十三歳。若い死だ。目には堪えきれない感情を抑えつ、大粒の涙を流していた。私もまた、「これで友情が果たせた。調べ終えられたのもマスコミにいたからだったんだ」。友の顔をみて思わず胸の熱くなるのを覚えた。

あらためて不戦の誓い

愚かなる戦争に駆り立て尊い命を奪った責任は誰に問えばいいのか。いま死語に近い「大本営発表」。権威をかさに内容が空しい



かつての日本軍アスリート空港。散らばる飛行機々首(左)と高射砲(右)の残骸

発表を信じた国民、敗戦の体験者ならだれもが知っていた言葉である。平和を希求してやまない。真実を伝えることの難しさを報道機関に四十数年間どっぷり漬かってきた私は沁み沁み感じる。六十年目の戦後を迎えた二〇〇五年、改めて不戦の誓いを立てた。昭和一刻々に生まれた私は忘れ得ぬ追憶を述べながら取材に協力を仰いだ北マリアナ政府に感謝しこの稿を閉じる。



魚雷。こんな細い胴体に兵士は入り突進した。

会員寄稿募集!

「Liberty Tower & Hall—自由の塔、自由の殿堂」では、会員の皆様のご寄稿をお待ちしています。

(送先)

- 郵送：〒101-8301 東京都千代田区神田駿河台1-1 明治大学広報部内 MMCニュース 会員寄稿係 宛
- Eメール：s.sawada@k7.dion.ne.jp
- * 幹事長の澤田のアドレス、写真添付可

MMC情報伝言板

MMC会員相互の情報交換の場として、Eメールリストによる配信を開始しました。情報提供方法は下記〈配信要領〉をご参照ください。また、Eメールリストへのご登録は下記まで必要事項を送信してください。

◆Eメール送信先：s.sawada@k7.dion.ne.jp
◆必要事項：お名前・学部・卒年・アドレス

〈情報伝言板実例〉

【情報提供会員】

山岸順一 (JAF 出版/83年・法卒)
●Eメール：fwii3207@mb.infoweb.ne.jp
●電話：045-730-1189 (21時~22時)
*お問い合わせ・参加申込は、直接上記会員まで。

日本レクリエーションカヌー連盟は30年以上もボランティアでカヌーを教えてきたスクール。安価な講習料実現のためカヌーも手作り。コーチは連盟の趣旨に賛同したスクール卒業生です。私はこのスクールでカヌーを習い、コーチとなり、気がつけば古株になりました。理事長夫婦が高齢のため、コーチ達が運営を代行。私が事務局を代行しています。

以下、カヌースクール開催の案内を記載しました。

- 1) MMC会員の皆様の媒体の紙面・番組等で、スクールの事を紹介していただけますと幸いです。
- 2) 会員の皆様をご参加していただくことも大歓迎です。是非とも宜しくお願いします。



♪今年の冬は暖冬でしたって気象庁は言うじゃない。でも相模カンツリー倶楽部の桜はまったく咲いてませんから。残念！。桜は咲いていなかったが、天気は上々、快晴微風(午前中のみ)



河合前会長、初優勝に顔は満開

【観桜ゴルフコンペへ】

絶好のゴルフ日和となった。当初7組28人を予定していたが、仕事やら風邪やらでキャンセル者が続出。それでも総勢二十二人と当コンペ参加人数の新記録となった。今回は堀さんの提案で、競技を従来のストロークプレーから「オネストジョン方式」に変えた。予め自分が回るスコアを申告しておく。プレー後に明らかにされる隠しホール四ホールをすべてパーとして計算し、申告してあるスコアとの差を競うゲームで、申告スコアに近い人ほど上位になる。この方式だと参加者全員、公平に優勝チャンスがあるというところだ。この恩恵にあずかり、優勝の栄に浴したのが河合さんで、優勝の賜杯と、京都・秀峰堂の武内さんから



「たからづくし」文様のコーヒークップを獲得した。今回は和田さん、堀口さん、四方さんと若手?の初参加者も多く、懇親パーティーも大いに盛り上がった。

記・榎都太郎
MMC副理事長
(64年・商卒)

MMC 観桜ゴルフコンペ成績表 (オネストジョン方式)

順位	氏名	グロス	申告スコア	調整スコア	正直度	順位	氏名	グロス	申告スコア	調整スコア	正直度
優勝	河合公八郎	101	95	96	1	12	茂木達郎	100	89	97	8
2	縫部隆彦	91	88	89	1	13	木元尚男	106	90	99	9
3	木村武平	117	105	106	1	14	西口宏忠	112	95	110	15
4	久保田武	106	96	97	1	15	諸靖	115	90	106	16
5	四方克彦	111	105	106	1	16	千田正穂	124	97	115	18
6	鎌倉精一	118	106	108	2	17	坂部哲太郎	101	97	95	-2
7	中根薫	103	94	96	2	18	榎都太郎	89	87	85	-2
8	中堀威夫	100	90	93	3	19	阿部剛巳	101	95	91	-4
9	宮本恭	97	85	89	4	20	和哲郎	128	120	116	-4
10	堀口博史	104	95	99	4	BB	柳光臣	96	98	92	-6
11	猪野慎吾	97	84	92	8	BM	野村義	99	100	92	-8

年会費四〇〇〇円納入のお願い

MMC会員の皆さん、年会費納入をお願いします。名簿総数四八八人。会計報告に記載の通り、会費納入者は一五二人、31%です。しかも、発足時から5年間未納のかたが一五〇人以上。会の根本にもかかわる問題かと思えます。MMCはマスコミ精神に則った独立自治のボランティア集団です。同じ建学精神を誇る母校が認めた公式OB団体として、会費は物心両面の支えになるものです。

◆加入者名
明治大学マスコミクラブ

◆口座記号番号
00130141762631

諸般のご都合で未納の皆さん。より後輩に、より天下に誇る活動体として充実、躍進させるためにも、同封の郵便振替用紙をご利用の上、今すぐ郵便局にて納入ください。用紙がない場合は、左記郵便振替口座までお願いします。

情報伝言板 配信要領

【目的】
2005年活動方針「会員にとってのメリットの創出」に基づき、会員相互の情報交換の場を提供し、会員の仕事やボランティア・趣味などの活動に役立てていただく。

【実施の流れ】
①情報提供会員は幹事長に情報をEメール送信する。(送信先：s.sawada@k7.dion.ne.jp)
②情報はパソコン環境の汎用性とウイルス対策を考慮し、添付ファイルは不可とする。
③幹事長は理事長から配信の認可を得る。
④認可後、Eメールリストに配信する。

【認可基準】
◆会員の多くにメリットある情報であること。
◆情報に誤りや不確実な部分がないこと。
◆危険性・トラブルが考えられないこと。
◆問合せ・返信先は情報提供会員とすること。
◆情報提供会員の自己紹介と、その情報における立場を明記すること。

初心者・中級者向けカヌースクール (定員15名)

カヌーで水辺をミスマシのように遊ぶ。基礎を静水でみっちり学ば、川だけでなく海でのカヌーも楽しむことができます。30代以上、ボランティアで教えてきました。親切丁寧な指導が評判です。

●主催：日本レクリエーションカヌー連盟
●開催場所：埼玉県長瀨町・千淀湖(荒川)
最寄駅：秩父鉄道・波久礼駅
●開催日程：ご都合の良い日を3日選んでください。
【4月】24、30日 【5月】3、4、14、22日
【6月】5、11、19日 【7月】2、10、16、17、30日
●時間：10:15~16:15 (小雨決行、増水時は中止)
●講習料：1回目5,000円 2回目以降4,000円
必要道具のレンタル料含む。
昼食、着替えは持参。
●内容：基礎知識、パドルの基礎、流れを利用した技術、ひっくり返って戻る技術など、3日間で必要な技術・知識を指導します。
●参加資格：10歳~75歳で心臓疾患のない方
●申込方法：事務局代行(山岸・上記記載)まで。
電話またはEメールでご連絡ください。
*留守電の場合お名前とご連絡先を入れてください。
*資料ご希望のかたは、山岸までご請求ください。